

山五小

おひさま通信

URL <http://www.dai5-e.ymgt.ed.jp>

平成28年度

7月号①

山形市立第五小学校
平成28年7月26日
校長 三森 聡

自己の成長を知り、自信につなげよう！

◆自分はどうな学びを獲得できたかな？



毎日水かけして育てたトウモロコシと1年生



5月の頃

毎日水かけをして育てている花壇のトウモロコシは、子ども達の身長を越すほどに育ちました。74日間の1学期は明日で終わりますが、毎日の書き取り練習が実り漢字テストで満点をもったり、大好きな曲をリコーダーで演奏できたり、またスマイル言葉をつかって友達に優しくできたりと子ども達の学びや目に見えない心の成長もトウモロコシと同じで、1学期の間に少しずつでも**確実に成長**しています。

しかし、子ども達の中には、自分がどんな学びができたのか通知表を見るまで気づかないといったこともあります。大事なことは、**自分自身がどんな学びを獲得できたのかを認識している（させる）こと、そのことが必ず自信を持つことにつながる**のです。この夏休みは、1学期の自己成長をステップにして思いきり活動を広げて欲しいと思います。

学校評議員の紹介

本校の学校評議員は、校長の求めに応じて市教委より委嘱され、本校の学力対策・運動能力・生徒指導・地域連携等、五小の教育活動に対しそれぞれの分野からご意見をいただきます。



全学級の授業参観をはじめ

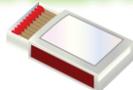
教育環境を確認する評議員の方々

◆◆ 学校評議員の方々 ◆◆

1. 佐藤竜太 氏
2. 小野寺建 氏
3. 佐藤 護 氏
4. 木村康二 氏
5. 齋藤 勲 氏
6. 村山恵美子 氏
7. 有川富士子 氏
8. 土屋美恵子 氏



マッチを初めて使ったよ！自然の家 炊飯活動



4年・5年少年自然の家 野外体験活動 7/11~13

毎年5年生は、山形市小年自然の家でのテント宿泊や白鷹山ウォークラリー等、2泊3日の野外体験活動を行っております。なかでも炊飯活動では、どのようにして野外でカレーとご飯を作るのか、班ごとに事前に調べてきたこともあり、それなりに美味しい？ご飯ができました。五小の子ども達の逞しさを感じたところです。4年生も、今年から炊飯活動に挑戦しましたが、用意されたマッチを全て使い切ってしまう、かまどの火を起すことの難しさを体験しました。



貴重なマッチの火を大事にして（4年生）



火が消えないように見守りながら（5年生）

子ども達にとって、**マッチを擦るという行為は、ほぼ初めての経験**になります。家庭の中においても電気やガスのスイッチやボタンを押すだけの生活であることから、マッチ箱を置いている家も無くなってきているといえます。そもそも、**子ども達がマッチを使う経験をするのは、4年生の理科で学習するアルコールランプに火をつける時とこの野外での炊飯活動だけ**になるのです。それだけに、安全に配慮しながらも、マッチで火をつけることの意味合いは大きいと考えます。

「現代の小学生は 82%が マッチを使えない」

毎日新聞記事(2015.9.13)より一部抜粋

「マッチで火をつけることができる小学生は、20年前の約3分の1である。」という内容の記事が毎日新聞に掲載されています。上記とも関連し考えさせられる内容でしたのでここに紹介します。

■民間企業が実施した「子どもの生活体験に関する調査」で、マッチや缶切りを使えない小学生の割合が、20年前に比べてずいぶん増えている。調査は昨年の2015年5月、首都圏に住む小学生の母親を対象にインターネット上で実施し330人から回答を得た。その企業は、同じ調査を20年前の1995年5月に調査票を用いて実施しており、今回の結果と比較して発表した。

調査によると、マッチを使える小学生は、全体の18.1%で、20年前の58.9%を大きく下回り、反対に「子どもにやらせたことがない」と回答した親は68.8%で、20年前（25.8%）の約2.7倍となった。また、「包丁でリンゴの皮をむくことができる」は10.1%（20年前は36.3%）、「缶切りで缶詰を開けることができる」は、20.7%（同50.7%）に留まり、いずれも6~7割の親が「子どもにやらせたことがない」と答えたとのこと。「タオルを絞ることができない・子どもにやらせたことがない」との回答も計19.7%あり、20年前の計2.6%を大きく上回った。同社は「便利な道具が増え、体験の機会が減ったことが、マッチや缶切り等を使える小学生が減った要因のひとつではないか」と分析している。



上級生が下級生に雑巾しぼりを教える本校の子ども達